

第28回例会報告

多摩ブルー・グリーン倶楽部 × 多摩地区大学就職研究会 「新卒採用」に関するグループディスカッション

会員企業の多くが経営課題の一つとしている「新卒採用」をテーマに、多摩地域17大学のキャリアセンター職員によって構成される「多摩地区大学就職研究会」と、会員企業との連携・相互理解と継続的な協力関係の構築を図るべく、グループディスカッションを行いました。

内容

第28回例会では、まず冒頭で多摩地区大学就職研究会より近年の学生の就職傾向についてお話いただきました。

■近年の学生の就職傾向

●現在、好景気で売り手市場のため、ここ数年は学内の就職セミナーやイベントの参加率は3割程度減ってきている。●就職活動の量も減少傾向で、他業種に視野を広げることなく、内定をもらうと満足してすぐに就活を止めてしまう学生も多い。●インターンシップについては、学生の参加率は約7割程度と増加している。ただし、5日間程度の「就業体験」という本来の意味合いが薄れ、採用を意図した「会社説明会」的な1dayインターンシップを設ける企業が増えている。学生も短期間に複数企業のインターンシップに参加するスタイルに変化している。●学生が多様化し、留学生やLGBTなど個別対応のケースが増えている。



次に、「大学側」と「企業側」各4~6名ずつで6つのグループに分かれ、30分×3回のグループディスカッションを行いました。近年の学生の傾向を受け、ディスカッションでは、「学生に企業の魅力をどうやって知ってもらうか」という課題について議論するグループが多く、企業と学生との接点である「インターンシップ」や「企業説明会」のあり方について、企業側・大学側のそれぞれの視点から活発な意見交換がなされました。

■インターンシップについて

●企業：●人気のない業種はインターンシップでもなかなか学生に選んでもらえない。例えば、「まちづくり」「環境」などテーマをもたせて、異業種合同の就業体験プログラムを組んでみたらどうか。小売業、不動産業、コンサルティング業、建設業、製造業など、テーマに関連する各業界の企業を数日間で体験できるようなカリキュラムがあれば、

なにかしら関心をもってもらえるのではないかと。

●大学：●「地元で貢献したい」「自分の住んでいるところをよくしたい」という地元志向の学生もいる。また、大学から近い地域の企業にインターンシップを受け入れてもらえるかと学生も参加しやすい。例えば、地方で行っているUIJターンのバスツアーのような企画を立て、多摩地域の企業見学会を開催するのもいい。卒業生が活躍している企業というだけでも親近感が増し、つながりを感じるようになるのではないかと。

■大学で行われる企業説明会について

●企業：●個別説明会などで企業のアピールをしたいが、そういった申し入れはキャリアセンターで対応してもらえるのか。

●大学：●春~4年卒業間際の2月中旬まで説明会は行っている。秋になってもまだ内定報告がない学生も2~3割程度おり、大学側も新卒採用情報を集めたい。「キャリアスUC」など、大学により求人情報システムは異なるが、キャリアセンターに問い合わせてもらい、「青少年雇用情報シート」と「自己申告書」の内容を登録するだけで、学生に求人情報がいく。●個別説明会や社数規模の合同説明会など、大学によって説明会の開催方法は異なるが、企業からの申し入れを受け入れていないキャリアセンターはない。スタッフに直接要望を伝えてもらえれば、その情報をまた学生に紹介することができる。

■まとめの感想

●企業：●学生がウェブやスマホで情報を探するのが当たり前の時代、そのような流れにも企業の求人に対応していかなければならないと感じます。加えて、多摩地域にある会社を知ってもらうためにも大学のキャリアセンターに足繁く通って、次のステップへ進むための努力をすることが大事だと思いました。

●大学：●情報があふれている世の中だからこそ、顔を合わせてのアナログの面談が非常に大事だと考えます。こういう機会を何度も積み重ねることで地域の企業様の素晴らしさを理解でき、学生にその魅力を紹介していけると改めて実感しました。この場をセッティングしてくださった多摩ブルー・グリーン倶楽部に感謝しております。



第2部の懇親会

「多摩地区大学就職研究会」加盟校

亜細亜大学、桜美林大学、杏林大学、実践女子大学、白百合女子大学、創価大学、拓殖大学、多摩大学、玉川大学、中央大学、帝京大学、東京経済大学、東京工科大学、法政大学、武蔵野大学、明星大学、和光大学(五十音順)